

# 日刊 動労千葉

1987年元旦

No.2443

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五（六）公衆〇四七二（22）七二〇七



本当に国鉄問題は結着がついたのか、断じて否である

中曽根自民党政府は、昨十一月二八日国鉄分割・民営化関連法案の国会通過を強行した。

では、本当に国鉄問題は結着がついたのか、断じて否である。

膨大な赤字を解消するためと称し開始されたにもかかわらず、三七兆円もの長期債務を清算事業団、各会社に「処理方法は今後検討」というベテンのやり方で振りわけたにすぎない。さらに、自民党は整備新幹線問題で早くも「外部勢力の介入」をはじめていっているではないか。

この事実が国鉄分割・民営化とは国鉄再建などでは全くなく、国鉄労働者十万人の首切り―国鉄労働運動解体攻撃であり、権力と大資本による国鉄資産の強奪攻撃であるという本質が誰の目にも一目瞭然となったということだ。

## 敵の破綻はこれから本格化

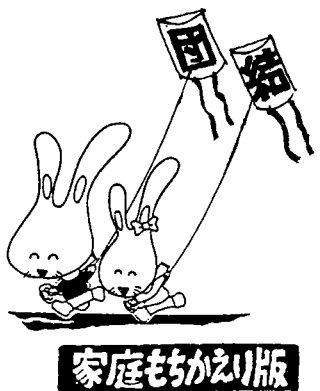
そして、分割・民営化攻撃の最大の狙いであった国鉄労働運動をめぐる攻防はどうであったのか。

総評を脱退し、国労解体を路線化した動労革マル松崎を先兵に「動労千葉、国労にいては雇用を守れない」などといった卑劣きわまりないベテンの手段をマスコミをも動員して展開したが、動労千葉

# 闘春

国鉄千葉動力車労働組合

執行委員長 中野洋



と十万人にも及ぶ気骨ある国鉄労働者が分割・民営化反対、労使共同宣言拒否の旗を高く掲げ、年を越してしまった。さらに動労総連合の結成をかちとった。われわれの突き進むべき道が一点の曇りもなくハッキリしているのにくらべて敵の破綻はこれから本格化する。

一切の鍵は、国鉄労働運動をめぐる攻防にかかっている

八七年は、新年冒頭から三ヶ月間の決戦にすべての成否がかかっているといっても過言ではない。

八七年は、三〇八議席を背景にした日帝・中曽根体制の「戦後政治の総決算」をかけた改憲―軍事大国化、戦争国家づくりの超反動攻撃が激化する年になるであろう。

国鉄を突破口に石炭、造船、鉄鋼、自動車、電機など基幹産業を中心にすべての労働者に対する首切り、レイ・オフ、賃金切り下げ、一切の諸権利のはく奪の総攻撃が開始されることは必至の情勢にある。

これを許すのか否か、反撃に立ち上って中曽根打倒まで攻め上れるのか否か、一切の鍵は、国鉄労働運動をめぐる攻防にかかっているのだ。

だとすれば、動労千葉の任務方針は鮮明である。

それは、第一に、年末・年始を返上して全組合員の総決起体制を確立し、一本

釣りを軸とするあらゆる組織破壊攻撃を粉碎し、家族ぐるみの強固な団結を堅持すること。

第二に、動労総連合の組織強化・拡大をこの三ヶ月決戦の渦中でなんとしてもかちとること。

第三に、国労の闘う仲間たちとの共闘を強化し全国交流会議の飛躍的前進をかちとること。

第四に、そのために冬季物資販売運動（目標売上げ一億円）と「俺たちは鉄路に生きる（第二報）」全国上映運動の圧倒的成功をかちとること。

第五に、中江・北原選挙をかちとること、である。

初志貫徹、これが動労千葉魂だ

中曽根―後藤田―杉浦―松崎連合の亀裂と矛盾の拡大、気概あふるる国鉄労働者の大量の出現、国鉄資産をめぐるドス黒い陰謀の全面開花、国鉄輸送の安全性の危機の切迫、等々国鉄分割・民営化の大破産は必至なのだ。

国鉄分割・民営化反対、十万人首切り阻止、運転保安確立、国鉄労働運動解体攻撃粉碎のスローガンがいまほど力を発揮するときはない。

初志貫徹、これが動労千葉魂だ。全国の仲間とともに勝利の日まで、この大道をまっしぐらに突き進もう。

一九八七年一月一日

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！